

医療環境整備専門委員会

目 次

医療環境整備専門委員会活動報告書

- I. は じ め に
- II. 委員会構成と委員会開催
- III. 救急医療体制の現状と問題点
～救急車利用実態の再調査から～
- IV. 救急医療体制の維持に向けた取り組みの企画と実践
～救急医療資源の適正利用を進める啓発キャンペーン～
- V. ま と め

医療環境整備専門委員会

(平成20年度)

医療環境整備専門委員会活動報告書

広島県地域保健対策協議会 医療環境整備専門委員会

委員長 田妻 進 (広島大学病院
総合内科・総合診療科)

目次

- I. はじめに
- II. 委員会構成
- III. 救急医療体制の現状と問題点
～救急車利用実態の再調査から～
- IV. 救急医療体制の維持に向けた取り組みの企画と実践
～救急医療資源の適正利用を進める啓発キャンペーン～
- V. まとめ

III. 救急医療体制の現状と問題点

～救急車利用実態の再調査から～

広島市消防局は救急医療のコンビニ的利用に対する具体的対応策を検討するため、平成20年2月12日から1ヵ月間の救急出動の適正を調査した(資料1)。

調査方法は、1) 症状が急激に悪化する可能性、2) 症状・傷病程度も区分、3) 傷病者の生活環境(独居老人、身体障害者等)を基準に救急出動の適正を判断するもので、結果として23.3%(898/3,854件)の不適正利用を認めた。これは前年度の実績を上回るものであった。今回は実態調査に引き続いて、広島市が行っている救急車適正利用のPR活動についてアンケート調査が実施されたが、その認知度は35.2%であったが、若年者においてその認知度が比較的低いことが判明した。

IV. 救急医療体制の維持に向けた取り組みの企画と実践

～救急医療資源の適正利用を進める啓発キャンペーン～

前述の実態調査から、1) 救急のコンビニ化(軽症患者の救急搬送)、2) 救急医療体制に対する理解と誤解(時間外医療と救急医療の相違に関する誤解)を問題点として取り上げ、救急車適正利用の推進を主体とした“救急医療資源の適正利用を推進する啓発キャンペーン”を企画・実践した。

平成21年3月9日からの1週間を「救急医療資源の正しい利用を進める週間」として、広島市医療圏に関わる公共交通機関(JR、電車、バス、タクシー)の協力を得て、ポスター(図1)を車内に掲載するとともに、医療機関の玄関・待合室などにも掲示して一般市民の啓発活動を行った(資料2)。また、3月9日は“サン・キュー”の日としてスター

I. はじめに

医療を取り巻く環境はメディアで報じられる以上に深刻な様相を呈している。中でも救急医療に関する状況は深刻である。その要因は複合的であるが、医療を受ける側(受療者)の認識と、医療を提供する側(医療者)の認識の微妙な“ずれ”が少なからず影響していると推察される。本委員会では、医療者・受療者双方の立場から、①救急医療体制の現状に関する問題点の指摘、②救急医療体制の維持に向けた取り組みについて提案を依頼し、それらをもとに協議を重ねたうえで、医療環境改善に向けた実効性のある“啓発キャンペーン”を企画・実践した。

II. 委員会構成と委員会開催

委員の構成として、広島大学病院、広島県、広島市、広島県医師会、広島市医師会、広島地域保健所、広島市民病院、中国労災病院の当該領域関係者に加えて、市民代表として子育てにやさしい広島推進協議会委員2名にも御参画いただいた。1回目の委員会を平成20年7月15日(表1)に開催し、救急医療体制の現状調査をもとに問題点を把握し、体制維持に向けた取り組みを提案した。第2回目を平成21年3月5日(表2)に開催して具体的な“啓発キャンペーン”企画の実践に向けた最終調整を行った。

トイベントを JR広島駅ならびに広島大学病院にて行
い（資料3）、地元メディアからの好意的な支援も受
けて、本イベントは報道された。

V. ま と め

2年間の活動の集大成を“啓発キャンペーン”とし

て完結できたことは、ひとえに委員ならびに関係各
位のご支援の賜物であった。誌面を借りてあらため
て心より感謝申し上げるとともに、この一般市民へ
のアプローチがどのように帰結するのか推移を見守
りたい。

表1 地対協 医療環境整備専門委員会

平成20年7月15日(火)

| 氏名 | 所属 |
|---------|-------------------------|
| 田 妻 進 | 広島大学病院総合内科・総合診療科教授 |
| 岩 崎 泰 昌 | 広島大学病院高度救命救急センター講師 |
| 田 代 裕 尊 | 広島大学病院第二外科講師 |
| 近 末 文 彦 | 広島地域保健所長 |
| 土久岡 り え | 子育てにやさしい広島推進協議会委員 |
| 内 藤 博 司 | 広島市民病院 集中治療部兼救急診療部部長 |
| 中 川 五 男 | 中国労災病院救急部長 |
| 中 西 幸 造 | 広島市医師会理事（中西医院） |
| 檜 谷 義 美 | 広島県医師会副会長 |
| 兵 藤 純 夫 | 広島市立舟入病院小児科部長 |
| 平 谷 優 子 | 子育てにやさしい広島推進協議会委員 |
| 藤 原 健 悟 | 広島市消防局警防部救急担当部長 |
| 井 崎 陽 介 | 広島市消防局警防部 |
| 堀 江 正 憲 | 広島県医師会常任理事 |
| 市 本 一 正 | 広島市健康福祉局保健部保健医療課長 |
| 鹿 田 一 成 | 広島県健康福祉局保健医療部 医療政策課長 |

(順不同・敬称略)

表2 地対協 医療環境整備専門委員会

平成21年3月5日(木)

| 氏名 | 所属 |
|---------|------------------------------------|
| 田 妻 進 | 広島大学病院総合内科・総合診療科教授 |
| 岩 崎 泰 昌 | 広島大学病院高度救命救急センター講師 |
| 高 杉 敬 久 | 広島県医師会副会長 |
| 田 代 裕 尊 | 広島大学病院第二外科講師 |
| 近 末 文 彦 | 広島地域保健所長 |
| 土久岡 り え | 子育てにやさしい広島推進協議会委員 |
| 内 藤 博 司 | 広島市民病院 集中治療部兼救急診療部部長 |
| 中 川 五 男 | 中国労災病院救急部長 |
| 中 西 幸 造 | 広島市医師会理事（中西医院） |
| 檜 谷 義 美 | 広島県医師会副会長 |
| 兵 藤 純 夫 | 広島市立舟入病院小児科部長 |
| 平 谷 優 子 | 子育てにやさしい広島推進協議会委員 |
| 藤 原 健 悟 | 広島市消防局警防部救急担当部長 |
| 井 崎 陽 介 | 広島市消防局警防部 |
| 堀 江 正 憲 | 広島県医師会常任理事 |
| 市 本 一 正 | 広島市健康福祉局保健部保健医療課長 (代理：行竹 昭) |
| 鹿 田 一 成 | 広島県健康福祉局保健医療部 医療政策課長 (代理：宇津宮仁志) |

(順不同・敬称略)

救急車利用実態調査等について

1 救急車利用実態調査

(1) 概要

救急医療のコンビニ的利用に対する具体的対応策を検討するため、平成20年2月12日から1ヵ月間の救急出動について調査した。

(2) 調査方法

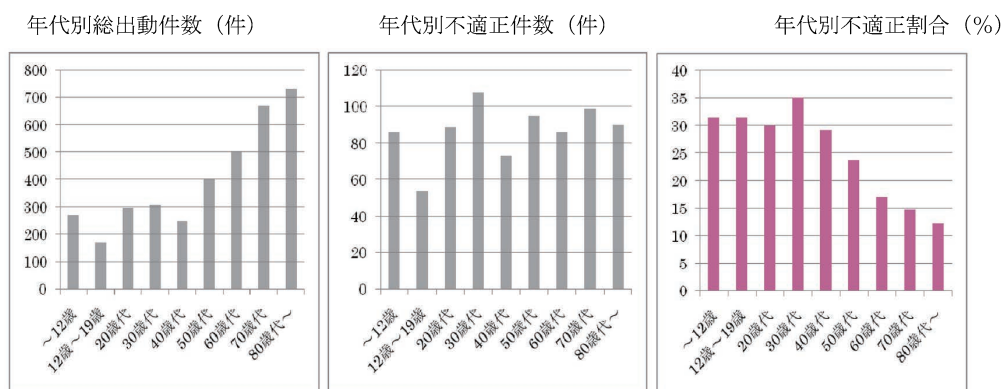
救急出動（転院搬送、医師等搬送、資器材等搬送を除く。）を大きく「適正利用」と「不適正利用」に区分し、事案の発生場所、時間、患者の年齢等、利用者の構成及び不適正利用の要因を調査した。

次の基準に従って、総合的に適正又は不適正の判断を行った。

- 症状が急激に悪化する可能性の有無
- 一般的にもわかる症状で傷病程度を区分（簡便な判断基準）
- 傷病者の生活環境を加味（独り暮らし老人、身体障害者等）

(3) 調査結果

- ・総出動件数 3,854 件中、不適正利用該当件数が 898 件（23.3%）であった。
- ・総出動件数では、70 歳代以上の利用が多いが、不適正利用件数では 20 歳代、30 歳代が前者を上回る。



(4) その他

継続調査を実施（平成21年2月9日～3月9日）

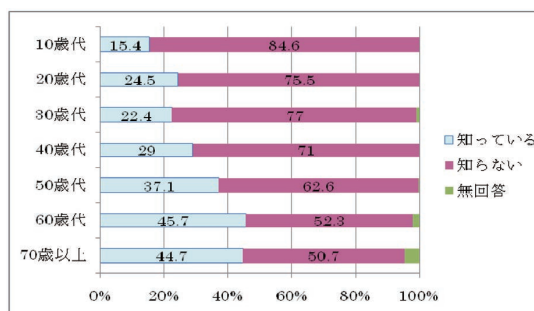
2 市民意識実態調査

(1) 概要

本市が平成20年3月、広島市に在住する18歳以上の男女5,000人を対象にしたアンケート

(2) 結果

本市が行っている救急車適正利用のPRについて、「知っている」と回答した人は35.2%であった。年代別で見ると、20歳代が24.5%、30歳代が22.4%と低く、職業別で見ると、事務職が20.5%、学生が20.4%と低い。



資料2：『救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン』の実施

| 資 料 提 供 | | | |
|-----------|--------------|-----|--------------|
| 平成21年3月4日 | | | |
| 課 名 | 医療政策課 | 所 属 | 広島市消防局 |
| 担当者 | 坂上、村井 | 担当者 | 藤原部長、井崎 |
| 電 話 | 082-513-3062 | 電 話 | 082-546-3461 |
| 所 属 | 広島大学総合診療科 | 担当者 | 田妻教授 |
| 電 話 | 082-257-5461 | | |

『救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン』の実施について

1 趣 旨

救急車や救急医療機関などの救急医療資源の適正な利用について、県民の理解と協力を求めるため、「救急医療資源の正しい利用を進める週間」を定め、公共交通機関の車両等へ啓発ポスターを掲示するなどのキャンペーンを展開する。

2 啓発週間

平成21年3月9日(月)～平成21年3月15日(日)

3 実施主体

広島県地域保健対策協議会、広島県消防長会、ひろしま健康づくり県民運動推進会議

4 実施内容

○啓発ポスター等の作成・掲示

| 種 類 | ポスター | | ステッカー | リーフレット |
|------|--------|-------|--------------|---------|
| 大きさ | B3判・横 | A2判・縦 | 横210mm・縦60mm | A4判・縦 |
| 作成枚数 | 1,350枚 | 800枚 | 7,300枚 | 10,000枚 |

| 協 力 機 関 | 内 容 | 数 量 |
|--------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 西日本旅客鉄道(株) | JR各車両へのポスター掲示 (B3判・横) 1枚 | 600枚 |
| 広島電鉄(株) | 各車両へのポスター掲示 (B3判・横) 2枚 | 電車360枚 市内バス170枚 郊外バス220枚 |
| 計 | | 1,350枚 |
| (社)広島県タクシー協会 | タクシー車両へのステッカー貼付 | 5,900枚 |
| 広島県個人タクシー協会 | 1枚 | 1,400枚 |
| 計 | | 7,300枚 |

※ポスターは、救急医療機関(152施設)へも掲示を依頼する。(A2判約800枚)

※リーフレットは、県内消防局・消防本部、医療機関等へ配布する。

5 実施する背景等

- 「広島県地域保健対策協議会」(広島県、広島県医師会、広島大学、広島市で構成)において、救急医療の現場を支援するための方策等について検討を進め、その一環として、昨年2月に広島市消防局管内で「救急車の利用状況」について調査を行った結果、救急車による患者搬送人員のうち、約2割超が「不適正な利用」であったという結果が出ている。
- 夜間や休日の救急外来における軽症患者の増加などを背景に、重症救急患者の円滑な受入が難しい状況になりつつある。

【取材のお願い】

啓発キャンペーンの開始に際して、啓発ポスターの掲示を、広島大学病院高度救命救急センター講師の岩崎医師が行います。

- 日 時：3月9日(月)午前9時
- 場 所：広島大学病院(広島市南区霞一丁目2番3号)
入院棟1階時間外出入口
- 連絡先：広島大学病院広報
担当 藤田 電話(082)257-5014

【協力機関取材連絡先】

- 西日本旅客鉄道株
担当者：広島支社 営業課 福江副課長
電話(082)264-7420
- 広島電鉄株
担当者：M・Sカンパニー経理管理グループ資材チーム
大田さん
電話(082)242-3545

J R, 広電用：ポスター（B3横サイズ）



タクシー用：ステッカー（縦60×横210mm）：両面印刷



（医療機関用：A2縦サイズ）



図1 『救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン』ポスター

資料3：「救急医療資源の正しい利用を進める週間」のスタートイベント

「救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン」のイベントについて

1 趣旨

「救急医療資源の正しい利用を進める週間」のスタートイベントとして、啓発リーフレットの配布等を行う。

2 実施日時

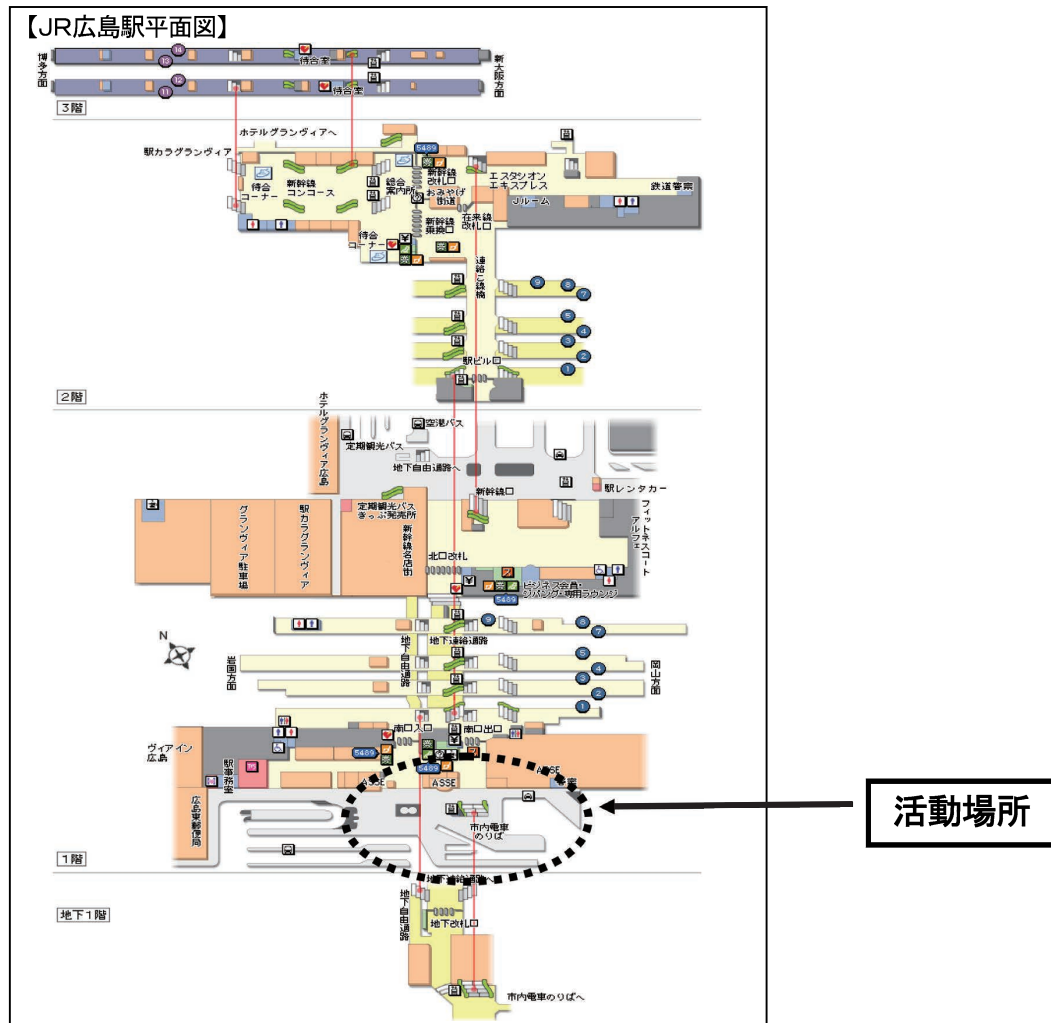
平成21年3月9日（月）午前8時～午前9時頃

3 場所

JR広島駅改札南口出口及び駅前広場

4 参加者

広島市消防局、広島県医師会、広島県 約11名



広島県地域保健対策協議会 医療環境整備専門委員会

| | | |
|-----|-------|--------------------|
| 委員長 | 田妻 進 | 広島大学病院総合内科・総合診療科 |
| 委員 | 市本 一正 | 広島市健康福祉局保健部保健医療課 |
| | 岩崎 泰昌 | 広島大学病院 |
| | 鹿田 一成 | 広島県健康福祉局保健医療部医療政策課 |
| | 田代 裕尊 | 広島大学病院 |
| | 近末 文彦 | 広島地域保健所 |
| | 土久岡りえ | 子育てにやさしい広島推進協議会 |
| | 内藤 博司 | 広島市立広島市民病院 |
| | 中川 五男 | 中国労災病院 |
| | 中西 幸造 | 広島市医師会 |
| | 檜谷 義美 | 広島県医師会 |
| | 兵藤 純夫 | 広島市立舟入病院 |
| | 平谷 優子 | 子育てにやさしい広島推進協議会 |
| | 藤原 健悟 | 広島市消防局警防部 |
| | 堀江 正憲 | 広島県医師会 |